全国高校サッカー 県大会

サッカーの第92回全国高校選手権県大会の最終日は17日、カシマスタジアムで水戸啓明－鹿島学園の決勝を行い、水戸啓明が6年ぶり6度目の優勝を果たした。県総体に続く夏冬2冠達成は2010年の鹿島学園以来3年ぶり。

水戸啓明は1点を追う前半38分、FW石川のアシストをDF阿部が決めて同点に追い付いた。その後は決め手を欠き、延長戦でも点が入らずPK戦で決着がついた。

鹿島学園は最後まで粘り強く戦ったがあと一歩及ばず、目標としていた4連覇の夢を絶たれた。

優勝した水戸啓明は全国大会（12月30日～来年1月13日、東京・国立競技場ほか）に出場する。組み合わせ抽選会は18日に行われる。

阿部が同点弾

【評】水戸啓明が少ない好機をものにして同点に追い付き、PK戦で鹿島学園を下した。

水戸啓明は前半32分にCKから先制されたが同38分、FW石川が右サイドで相手を引きつけ、パスを受けたDF阿部が決めて同点に追い付いた。その後は加点できなかったものの、GK黒子を中心に延長戦も粘り強く守った。PK戦は2人目以降の7人全員が決めて熱戦を制した。

鹿島学園は相手の2倍以上となる13本のシュートを放ったが、勝ち越し点が奪えなかった。

▽決勝＝40分ハーフ
水戸啓明 1 1−1 1 鹿島学園
0−0
延長
0−0
0−0
（PK7−6）

▽得点者【水】阿部（前半38分）
【鹿】松居（前半32分）

【鹿島学園】4・4・2

黒子	GK	鈴木圭
永井		川合
会沢		中村
川副		松居
阿部		奥津
富永		室井
村山		吉岡
吉田		西谷
戸辺		濱成
石川		遠藤
神山		文
5	SH	13
7	CK	5
17	FK	15
0	PK	0

【水戸啓明】4・4・2

▽交代【水】雨川（神山）石橋（阿部）栗崎（村山）高柳（石川）【鹿】城（西谷）白須（遠藤）鈴木郁（文）

▽警告【水】黒子

啓明 熱戦制す

PK決着

チーム一丸、難敵撃破

夏冬2冠

ハイライト

PK戦の8人目。水戸啓明のGK黒子兼汰（3年）がシュートを止めた瞬間、水戸啓明イレブンはピッチで喜びを爆発させた。3連覇中の鹿島学園との接戦を制し、6年ぶりの全国切符を手に入れた選手たちの目には涙が浮かんでいた。

DF会沢凌主将（同）が「厳しい戦いだった」と振り返ったように長く熱い戦いだった。1点を追う前半38分にFW石川大地（同）からのパスをサイドバック阿部悠大（同）が決めて同点に追い付いた。

しかし、後半に入ると攻め手を失い、逆に相手の勢いが増した。そんな中で「決勝の大きなポイント」と巻田清一監督(45)が話していた守備陣の踏ん張りが光った。MF富永日吉（3年）、センターバック会沢、川副天志（同）の連係で、相手の猛攻を跳ね返した。迎えたPK戦。「チームの気持ちが一つになって、最後まで諦めずに戦った」と阿部。最後に勝利の女神は水戸啓明に微笑んだ。

「全力でやって崩れたら俺がお前たちの骨を拾ってやる」。選手たちは試合前、巻田監督からこう励まされたという。「この人に付いていけば大丈夫と言える存在」と会沢。「監督を全国選手権に連れていけて本当によかった」と笑みを浮かべ、「ベスト4に入れるようチーム一丸で戦いたい」と力強く語った。

（杉野碧）

水戸啓明－鹿島学園 前半38分、水戸啓明・阿部が同点ゴールを決める＝カシマスタジアム、嘉成隆行撮影

鹿学 4連覇逃す

○…4連覇を逃した鹿島学園の鈴木雅人監督(38)は「チャンスはあったが取り切れなかった」と振り返った。

前半32分、DF松居朋生（3年）が左CKに「低く収めようと思った」と頭で合わせて先制。6分後に同点とされても慌てなかった。後半にスピードのある白須達也（同）、城玲央奈（同）らFW陣が投入されると攻撃が活性化。両サイドを鋭く突破してゴールに迫ったが、城のヘディングが相手GKの好セーブに阻まれるなど決定機を生かせなかった。

6月の県総体決勝では試合終了間際に勝ち越されて敗れたが、この日は最後まで集中を切らさなかった。声を張り上げて味方を鼓舞し続けたMF吉岡正起主将(同)は「追い付かれても点を取れると信じてやれた。夏より強くなった」と話した。

水戸啓明－鹿島学園 前半32分、先制ゴールを決め喜ぶ鹿島学園・松居（中央）

黒子 好セーブ

守護神、勝負強さ

○…水戸啓明のGK黒子兼汰（同）が緊張高まるPK戦で勝負強さを発揮した。

「絶対勝てると信じていた」と黒子。4人目を終えて3－4と劣勢だったが5人目で相手が外して振りだしに。「何かあると思った」と黒子は予感したという。迎えた8人目。相手が蹴った瞬間、左に飛んだ。「勘だった」というが俊敏な動作で見事にはじき返した。

昨年の県大会では控えのGKだった。悔しさを胸に練習に励み、1月の新人大会では先発メンバー入り。現在も背番号は「12」で「このまま最後まで12番で出たい」。172㌢の小柄な守護神はそう言って笑った。

PK戦でシュートを止める水戸啓明のGK黒子

野尻2位

マヨロワ初V

横浜国際女子マラソン

来年のアジア大会（仁川＝韓国）代表選考会を兼ねた横浜国際女子マラソンは17日、横浜市の山下公園発着で行われ、2011年世界選手権代表で31歳の野尻あずさ（ヒラツカ・リース）が日本勢最高の2位に入ったが、タイムは2時間28分47秒にとどまった。36歳のアルビナ・マヨロワ（ロシア）が2時間25分55秒で初優勝した。

前回日本人トップの2位だった那須川瑞穂（ユニバーサルエンターテインメント）は2時間30分27秒で4位。中里麗美（ダイハツ）は序盤に脱落して10位だった。（スタート時晴れ、気温16度、湿度84%、東南東の風1・1㍍）

日本勢最高の2位でゴールする野尻あずさ＝横浜・山下公園

▽成績 ①アルビナ・マヨロワ（ロシア）2時間25分55秒②野尻あずさ（ヒラツカ・リース）2時間28分47秒③アウグスト（ポルトガル）2時間29分11秒④那須川瑞穂（ユニバーサルエンターテインメント）2時間30分27秒⑤フィレス（ケニア）2時間31分21秒⑥カルマー（南アフリカ）2時間32分39秒⑦ロス（英国）2時間35分19秒⑧樋口紀子（ワコール）2時間37分56秒⑨大久保絵里（ミキハウス）2時間40分2秒⑩中里麗美（ダイハツ）2時間42分14秒

女子層薄く

陸連危機感

日本選手で2時間30分を切ったのは野尻だけ。駅伝との絡みで実業団選手の参加は少なかったとはいえ、あまりにも寂しい。日本陸連の尾県貢専務理事は「女子マラソンの選手層がかなり薄くなった。危機感を持った」と漏らした。

5㌔17分20秒とペース

いわき平競輪

最終日

◇1 Aチ般 固 15 20

◎	田中誇士	3	9
注	落合実	7	4
×	村松俊弥	7	7
	渡辺寛信	9	5
	宮本秀人	7	4
	金井充	9	8
○	望月克馴	6	7
	山崎久史	8	8
▽	江崎魚彦	6	6

①⑦ ①③ ①⑨

◇2 Aチ般 固 15 45

注	村上皐	7	6
▽	川端大輔	8	3
◎	駒井大輔	1	9
	亀山重徳	8	5
	小沼健太	9	9
	浜田鍵二	9	9
×	小川達也	3	9
	佐々木賢	8	2
○	矢島信弥	9	3

③⑨ ③⑦ ③②

◇3 Aチ選 固 16 12

	薮下直輝	7	1
◎	鶴井敬一	2	4
×	村上貴彦	8	1
	伊藤直幸	4	4
○	関根健太	3	6
	植村翔太	4	8
▽	樋口琢	6	8
注	本田直也	5	7
	菅田彰人	5	6

②⑤ ②③ ②⑦

◇4 Aチ選 固 16 43

	大塚円	6	5
×	野中祐志	2	7
◎	町島寿幸	1	8
	茨木基成	6	2
注	栗田伸也	3	7
	木村成希	5	5
○	橋本智昭	3	5
	馬場久	4	4
▽	杔原翔太	4	6

③⑦ ③② ③⑨

◇5 A特般 固 17 17

	細川秀勝	9	3
◎	赤石聡	7	9
▽	前川裕希	4	9
	阿部晃	8	8
○	大河原久	5	5
	青柳禎	9	9
注	若林功	補	：
	吉田輪太	9	8
×	神田宏行	6	6

②⑤ ②⑨ ②③

◇6 A特選 固 17 54

▽	伊藤司	補	：
×	川上真二	7	7
◎	村本慎吾	6	2
	高橋潤	9	4
	湯浅弘光	3	9
	斎藤和也	7	6
	清水一博	6	7
注	大竹洋	補	：
○	伊豆田浩	3	9

③⑨ ③② ③①

◇7 A特選 固

×	須々田大
注	今泉
○	広川貞治
	黒田充
◎	平原啓多
	滝口和宏
▽	佐藤雅春
	森山哲郎
	笹治稔

⑤③ ⑤①